

十二月例会御案内 (令和元年、昭和五四年、通算七〇二回)

公益財団法人協和協会

○御案内

十二月二十五日(水)十一時半入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館・一階一〇二会議室

講題 この一年の政治を分析し、令和二年の政治を占う!

講師 高橋利行先生(政治評論家、元読売新聞東京本社 解説部長・論説委員・編集局次長)

月日の経つのは早いもので、今年も残すところあと三週間ほどになりました。想えば、この一年、政治面で実にいろいろなことがありました。そこで、年末にあたり、政治評論家の高橋利行先生に、この一年の政治を分析した上で、令和二年の政治を占っていただいで、本年の月例会の締めくくり、とさせていただきますことになりました。

思うに、明年は、アメリカの大統領選挙、韓国も大統領選挙があり、また米中貿易戦争の結末がどうなるのか、国際的にも経済的にも波瀾ぶくみであります。

それに伴い、日本も影響を受けるのは必至であり、日本がそれにどう対処すればよいのか、国内での、政治・政党の動きはどうなるのか、政局へ発展する動きはどうか等々、いろいろと考えられますので、斯界の専門家、高橋利行先生に御解説いただきます。奮っての御参加を!

(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千円、外部からの参加者は五千円

公益財団法人 協和協会 <http://www.kyowakyokai.or.jp>

十二月二十五日(水)の月例会に

出席 欠席 (いずれかに〇印を) 電話 03-3581-1192 FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様の FAX メール 当日連絡先 080-8836-6203 重田 080-9292-2620 高津 (メール不可・通話のみ)

十二月二十三日(月)までに欠の御連絡賜りたく。

○御報告

中国を含むユーラシア大陸には、多くの民族・国家が共存してきたが、中華人民共和国が成立すると、中国の共産政権は、隣接したチベットはじめ諸国を制圧・圧迫しているとの情報は知っていたが、習近平の中国との貿易競争に突入しているアメリカのトランプ大統領が、近年、中国政権内に取り込まれたウイグル族を数百万人も拘束・幽閉していると非難し、いま国際社会の関心が大きく高まってきている。

そこで、十一月二十五日の月例講話会は、中国の圧迫を逃れて戦後、日本に來られているペマ・ギャルポ先生(桐蔭横浜大学・大学院教授)に『日本よ、中国内の各民族の実情を知ってほしい』と題し、衆議院第一議員会館第七会議室にて、御講話をいただいた。

そのお話の要旨を記すと、先生はまずユーラシア大陸の西部から中部の大きな地図を広げられ、共産中国前までは、多くの民族が独立の国家をつくり、中国とも共存してきた。しかし、チベットの場、一九五〇年(昭和二十五年)、共産中国は、チベットへ侵攻・制圧し、一二〇万人ものチベット人を虐殺、六〇〇〇箇所のチベット寺院を破壊・閉鎖した。そしてチベット王ダライ・ラマを海外へ追い出し、広大なチベット国を中国へ編入し、自治区として今日に至っている。

チベット国の北に位置するウイグル族の東トルキスタンも共産中国前は独立国で中国であったことではない。しかし、その東トルキスタン国も、中国軍が侵攻・制圧していまは「ウイグル自治区」とされている。ウイグル民族は、トランプ大統領が言うように、数百万人が抑留所へ入れられ鎖繋がれている。また、ウイグル人は体内にGPSを埋め込まれ、常に監視されているという。

アメリカや欧米諸国は、天安門事件以降、「中国も豊かになれば、民主化が進むだろう」と見ていたがそうはならなかった。香港も、返還に当たり五十年間、一国二制度を守ると約束していたのにご覧のような状況だ。また中国は、南太平洋諸国の各議員に一人一億円づつ渡して懐柔している。共産中国は一貫して、一党独裁・覇権主義の国家である。日本人も肝に銘じていただきたい。(清原記)

▽「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を研究調査し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出することにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会の他に八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。

第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・前衆議院安全保障委員長、元外務副大臣が就任している。

▽事務局電話(03)3581-1192 代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津